

# 横浜市住生活基本計画の 改定についての考え方（案）

- (1) 住生活・住環境に係る現状と課題（資料6まとめ）
- (2) 住生活基本計画の見直しに向けた視点

## 4 『横浜市住生活基本計画』の改定についての考え方（案）

### （1）住生活・住環境に係る現状と課題（資料6まとめ）

#### 現 状

【現状13,14】 コロナ禍を受け、求める近隣環境等の変化、  
郊外部への住み替え意向の増加

【現状15】 郊外部に市民の2/3の世帯が居住

【現状16】 東京都とは22年ぶりの転入超過

【現状17】 災害対策に対する高い市民ニーズ

【現状2】 共働き世帯、ひとり親世帯の増加

【現状3】 高齢者のみの世帯の増加

【現状4】 生活保護受給世帯、住宅扶助受給世帯の増加

【現状5】 外国人世帯の増加

【現状6】 耐震性、バリアフリー、省エネ性をすべて満たす  
住宅ストックは約3%

【現状10】 市内の約6割の世帯が共同住宅に居住

【現状11】 持ち家のうちマンションが約4割

【現状12】 築40年以上のマンションの増加

【現状8】 空き家のうち「その他の住宅」は一戸建て・  
共同住宅とも減少

【現状9】 持ち家で暮らす単身高齢世帯の増加

#### 課 題

① 新たな日常や多様な住まい方に対応した  
住宅地の実現

② 災害に強く、安全な住宅・住宅地の形成

③ 安心して子育てできる住まい・住環境づくり

④ 多世代で支え合い、高齢者世帯が安心して  
暮らせる住宅・住環境

⑤ 住宅確保要配慮者の増加に対応した  
重層的な住宅セーフティネットの構築

⑥ 良質な住宅ストックの形成

⑦ マンションの管理適正化・再生円滑化の推進

⑧ 空き家の総合的な対策の推進

横浜ならではの多様な魅力の維持・向上  
+ 市内経済・産業の発展

## 4 『横浜市住生活基本計画』の改定についての考え方（案）

### (2) 住生活基本計画の見直しに向けた視点

#### 社会環境の変化 の視点

【項目1】新たなライフスタイルに対応し、多様なまちの魅力を生かした、豊かな住宅地の形成

【項目2】災害に強く、安全な住まい・住宅地の形成と被災者の住まいの確保

#### 居住者・コミュニティ の視点

【項目3】安心して子育てできる住まい・住環境の実現

【項目4】多世代で支え合い、高齢者が健康で安心して暮らせる住まい・コミュニティの形成

【項目5】住宅・福祉施策が一体となった重層的な住宅セーフティネットの構築

#### 住宅ストック の視点

【項目6】脱炭素社会の実現に向けた良質な住宅ストックの形成

【項目7】マンションの管理適正化・再生円滑化の推進

【項目8】空き家の予防・流通活用・管理不全防止解消・跡地活用の総合的な対策の推進

### <参考> 新たな住生活基本計画（全国計画）の視点と目標

#### ①「社会環境の変化」の視点

- 目標 1 新たな日常、DXの推進等
- 目標 2 安全な住宅・住宅地の形成等

#### ②「居住者・コミュニティ」の視点

- 目標 3 子どもを産み育てやすい住まい
- 目標 4 高齢者等が安心して暮らせるコミュニティ等
- 目標 5 セーフティネット機能の整備

#### ③「住宅ストック・産業」の視点

- 目標 6 住宅循環システムの構築等
- 目標 7 空き家の管理・除却・利活用
- 目標 8 住生活産業の発展

資料：新たな住生活基本計画の概要（令和3年3月19日閣議決定）